



美しい阿寒湖の自然と、すべての命のために。
今、大いなる一歩を。

鶴雅グループのCO²の大幅削減への挑戦 ゼロカーボンプロジェクト始動

2009年2月、鶴雅グループの代表取締役・大西雅之は、「鶴雅グループ省エネ改革 ゼロカーボンプロジェクト」を3月中旬から実施することを発表しました。これは、新たに確保した阿寒湖温泉の泉源を利用し、その温泉熱を熱回収するとともに、ヒートポンプとの総合利用を行い、年間重油消費量を約83%削減しようとするものです。この改革により、年間のCO²排出量も約34%（約2,167トン）削減できる見込み。こうした大々的な省エネ事業に一企業が取り組む例は全国でもまだ珍しく、この試みが次代へと広がってゆくことを鶴雅グループは願っています。

温泉熱を「鶴雅」と「鄙の座」の冷暖房や給湯に利用し、
年間の重油使用を約83%削減！

今回のスタートで「ゼロカーボンプロジェクト」が実施される施設は、阿寒湖温泉街の「あかん遊久の里鶴雅（現・あかん湖鶴雅リゾートスパ 鶴雅ウイングス）」と「あかん鶴雅別荘鄙の座」です。同プロジェクトのために新たに確保された泉源の最高温度は約67度もあり、熱交換器を通してホテル内の給湯や暖房に十分活用することができます。同時に温泉廃湯の熱も利用し、こちらはヒートポンプシステムを駆使。冷暖房に利用されます。



温泉熱を利用してCO²排出削減

温泉熱を暖房等に利用する例は従来からあります。しかし、鶴雅グループが推進する同プロジェクトのような大規模な事業は希少。そのため、昨年末には国から「平成20年度中小企業に対するCO²排出削減量認証事業」の採択事業者として採択をうけ、さらに1月末には「新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）」から「平成20年度 温室効果ガス排出削減支援事業」として補助金の交付も決定していました。温泉熱を利用したCO²削減方法は、各方面から注目を集めています。



今後もグループ全体へ展開。
環境を優先するホテル事業を未来に向けて...

こうして鶴雅グループの「ゼロカーボンプロジェクト」第一期は、阿寒湖畔の恵みである温泉熱により、大幅なCO²削減を実現ができそうです。ISO環境14001を取得したのが5年前。今度は大規模な試みに挑み、このノウハウをいずれ「北天の丘あばしり湖鶴雅リゾート」や「サロマ湖鶴雅リゾート」に導入する予定です。併せて、水道水利用の見直しやLED照明への変換など、さまざまな環境活動を推進してゆきます。



鶴雅グループ省エネ改革 ゼロカーボンプロジェクト

温泉熱を利用した省エネ事業

「平成20年度 中小企業に対するCO²排出削減量認証事業」
「平成20年度 温室効果ガス外出削減支援事業費補助金交付」

「鶴雅」「鄙の座」で新たに温泉を導入し、増加した温泉熱を段階的に熱改修及びヒートポンプの総合利用で重油消費量、CO²排出量の大幅削減をする。

CO²排出削減量 2,167トン ・ 重油削減量 83% ・ 省エネ量 743Kcal

既存システム（重油ボイラー）

温泉の加温、給湯、暖房の熱源として利用

温泉熱を使用した温泉熱供給システム

- 温泉と上水を熱交換し給湯の消費燃料を削減
- 浴槽の循環加温をかけ流しに変更し消費燃料を削減

ヒートポンプシステム

- 熱交換システムで利用できない温度域の廃湯から採熱が可能
- 温泉の温度以上の高温をつくり暖房に利用し消費燃料を削減
- 冷房の利用によりエネルギーを低減

- 経済産業省、環境省、農水省が主催する国内クレジット制度において、排出削減計画を国内クレジット認証委員会に北海道電力（株）様と共同で申請いたしました。
- 北海道電力（株）様の支援により、当グループの排出削減量の買取について調整を進めております。
 - (1) 温泉排熱回収ヒートポンプ冷暖房システムによる省エネルギー事業 408トン
 - (2) 温泉熱及び温泉排熱エネルギーの利用（熱交換を新方法論として国内クレジット認証委員会に申請中） 1,759トン

経済産業省北海道経済産業局発刊
「省エネ・新エネをさらに活かす国内クレジット」に
森の譚が事例として紹介されました。

